

新南極観測船（砕氷艦）「しらせ」見学会の報告

2008年12月5日(金)、京都府舞鶴市のユニバーサル造船(株)舞鶴事業所にて、建造中の新南極観測船「しらせ」の見学会を開催しました。あいにくの雨でしたが、45名の参加者が大阪・神戸からバスに乗り込みました。

新「しらせ」と初代「しらせ」を比べると、船型・排水量はほぼ同じで、3ノットで1.5m厚さの氷を連続砕氷できる能力も同じですが、氷海航行性能向上・燃費低減のための様々な改良がなされています。例えば、初代「しらせ」の経験に基づいた3軸6主機から2軸4主機への変更、海水と船殻の摩擦低減のためのステンレスクラッド鋼の採用、氷上の冠雪による抵抗を低減するための融雪散水装置の装備、環境に配慮した二重船殻構造などです。また、観測研究者に最適な研究観測環境を提供するための配慮が随所でなされています。

現地に向かうバスの中では、大阪大学非常勤講師の野澤和男氏に、氷海と砕氷船に関するお話をいただきました。全頁カラー刷りの分厚い資料とビデオを使ったわかりやすいお話は、新「しらせ」見学のための基礎知識を仕入れるのに大いに参考になりました。

現地に到着後、プロジェクトリーダーの佃洋孝氏に新「しらせ」の概要を説明いただき、その後、4つの班に分かれて見学が行われました。1つの班に3名の案内員が付くという十分な安全配慮のもと、船橋、観測隊員の居住区、ヘリ格納庫などを回りました。見学中・見学後にたくさんの質問が出され、なかには船体抵抗低減の工夫、氷海水槽での性能推定実験の手法、降雪による航行影響などなど極めて専門的な質問もあり、皆様の関心の高さが伺えました。

帰りのバスでは、元日立造船の山口栄三氏から提供いただいた初代「しらせ」の航海記録ビデオを、山口氏のおもしろおかしい解説付きで楽しみました。

講演、見学、ビデオと充実した見学会を実現していただいた関係者の皆様、ユニバーサル造船の皆様様に深く感謝いたします。

(記 会務委員 飯田 隆、箕浦 宗彦)



新「しらせ」の艦番号は5003



野澤氏のお話に耳を傾けるの図



ユニバーサル造船の皆様、お世話になります



新「しらせ」の説明を聞くの図